



多様性を尊重し問題を解決する力の育成を目指して

副校長 鈴木 巧

学校は、生徒にとって様々なことを学び成長していく場です。その学びはいくつかあります。一つは授業を通しての学びです。授業では知識、技能の習得に加えて多くの深い学びがあります。もう一つは「経験」を通しての学びがあります。多くの経験ができる行事の一つが運動会です。春江中学校では、5月18日（土）に運動会が実施されました。

行事を通じた学びには、「どのようにしたら勝てるのか答えのないことを考える思考力」、「仲間への気遣いや励ましの気持ちや失敗などの逆境に対してもくじけない精神力」、「思い切った判断をくだす決断力」など、問題を解決する力が求められます。特に運動会では、「運動が得意な生徒」「苦手な生徒」「興味がある生徒」「興味がない生徒」がいます。人と違うだけで、決してどれも間違いではありません。このように、生徒はそれぞれ多様性（違う点）があります。生徒会ではその多様性を理解し、多くの生徒が楽しめる競技として「宅急便リレー」、「ボール運びリレー」などを自分たちで考えました。どの種目も多様性を活かして、誰もが最大限に自らの力を発揮できる素晴らしい種目でした。本番を迎えるまでに練習を通して作戦を考えたり、走順を変えたり、様々な工夫をクラスで話し合いました。当日に観客、生徒、教職員の多くの笑顔が見られたことがいかに生徒のここまでの取組が充実していたのかの証となりました。確かに結果は大切です。結果を重視し、結果を求めるからこそ熱くなれ、熱狂でき、懸命に取り組める側面もあります。しかし、中学校の教育では、そこに至るまでの過程が大切です。日々の結果に一喜一憂せずとにかく目の前のことを最後まで懸命にこなす過程、日々の地道な努力を積み重ねていく過程こそが、自分の成長や明るい未来へと繋がっていきます。その過程で、多くの「失敗」や「成功」の経験をしたと思います。なぜ失敗したのか、

なぜ成功したのかを考え、その体験ができた今こそ、この『なぜ』を追求してほしいと思います。私が一番素晴らしいと思ったことは、「なにやってるんだ」ではなく「〇〇した方が良い」というアドバイスが多く聞かれたことです。本校生徒の相手の立場を考えた優しい一面を見ることができ、副校長として誇らしく思いました。気温が高い中、お子様の姿を見ようと観戦にいらした保護者、何回も会議を開き、本番も朝から支えてくださったPTAの方々（生徒席のテントはPTAからの寄贈）、運動会本番まで生徒のファシリテーターとして寄り添って指導してきた教職員、地域の方々、全ての方々に心から感謝いたします。私はこの春江中学校の副校長として、春江中学校の生徒が持ち合わせている次世代を担うための能力について身をもって理解しています。生徒の周りにはそのがむしゃらさに寄り添ってくれる仲間、教職員、地域の方々、そして何より温かな保護者がいます。だから未来に光を灯し、なりたい自分に向かい努力をしてください。

OForesight 手帳の取組

本校では今年から自己管理能力の育成を目指して Foresight 手帳を導入しました。手帳を活用することで多くの効果が見込まれます。その一つに学力の向上があります。定期考査、単元テストに向けて生徒自身が自分で目標を立てる。その目標を達成させるための計画を立てる。終了したら目標や計画を修正する振り返りを行い、次回に生かす。PDCA サイクルや自らで時間管理、学習を管理する力を身に付けることを期待しています。手帳の活用ですべてが解決するわけではありませんが、自分が成長する機会、先の見えない時代を切り拓く力を身に付ける学びの良い機会となります。ぜひご家庭でもお子様の手帳の活用状況をご覧になっていただき、話題にしてみてください。